

企業経営を楽しくするために、効果の出るやり方を作ってそれに集中しましょう。

%company%
%free1%
%free2%
%name_sama%

◆全4回シリーズ、AIリテラシー勉強会

AI活用のポイントを全4回で解説。

会社の成長に役立つ考え方と具体的な現場への導入事例を学び、
ビジネスを次のステージへ導くヒントをお届けします。

※リテラシー（literacy）とは、

英語で「読み書きの能力」や「識字能力」を意味する言葉ですが、
現在では「特定の分野に関する知識や能力、それを応用する能力」
という意味で使われるのが一般的です。

- ◆第1回 “AI”を経営に役立てるには？
- ◆第2回 ChatGPT, Copilot, Geminiの使い分け
- ◆第3回 使いこなすために必要なこと
- ◆第4回 具体的なAI現場活用事例

~~~~~  
第1回 “AI”を経営に役立てるには？

【目次】

- はじめに
- AIを経営に活かすという事
- 現場における革命
- 会社をどのように変えるべきか

AIの進化は、企業経営にとって  
企業経営にとってこれまでにない大きな変革をもたらす可能性を秘めています。

単なる技術の進化にとどまらず、ビジネスモデルの根本的な再構築を促し、

競争力を大きく左右する要因となるでしょう。

データの活用や業務の自動化、意思決定の高度化など、  
AI がもたらす影響は多岐にわたり、  
あらゆる産業で劇的な変化が来ることが、想定されています。

このような未来に備え、今、企業はどのような準備を進めるべきでしょうか。  
AI の進化を単なるトレンドとして捉えるのではなく、  
経営戦略の中核に据えることで、  
持続的な成長と競争優位を確保することが求められます。

本記事では、AI を経営に効果的に取り入れるための  
具体的な考え方やアプローチを詳しく紹介し、  
企業がこれからの時代にどのように対応していくべきかの道筋を示します。

AI 時代における経営の新たな在り方を考え、  
変革を迎えるにあたってのヒントや実践的なアプローチを提供します。

今回の記事が  
あなたの会社が未来に向けてどう進化するか戦略となり  
競争力を高めていくべきか、その第一歩を踏み出すきっかけとなれば幸いです。

## ■ AI を経営に活かすという事

そもそも経営とは、自分の思い描く「理念とビジョン」を実現するため  
自立した生活をし家族を養い、  
従業員を雇用し、生活の糧を提供するためにするために行うものですが

その本質は  
お金を用意して、お金を使って、お金を増やすこと

が出来ないと「経済活動」は成り立ちません。

その効率を上げるために我々経営者は日々精進しているわけですが  
その手段として AI を経営革新の重要な要素である DX と比較して考えてみましょう。

### 1.AI(人工知能)とは

AI とは、コンピュータが人間のように学習し、思考し、

問題を解決する能力を持つ技術を指します。

これには、機械学習、自然言語処理、画像認識、ロボティクスなど、さまざまな技術が含まれています。

AI は大量のデータを分析し、予測や意思決定の精度を高めるために活用されます。

#### ◆経営における AI の意味

AI は、ビジネスプロセスの自動化、データ分析、予測モデル、顧客体験の向上など、さまざまな分野で経営に貢献します。

たとえば、AI は次のような場面で活用されます：

・データドリブン(データに基づいて判断やアクションを行う考え方やプロセス)な意思決定

AI は膨大なデータを解析し、ビジネスの最適な判断をサポートします。

・業務効率化とコスト削減

反復的なタスクを AI が自動化することで、人間の労力を節約し、生産性を向上させます。

・顧客サービスの改善

AI を利用したチャットボットやカスタマーサポートが、

24 時間対応の効率的な顧客対応を実現します。

\*全世界に対応するは、必須の生残り条件になっています。

## 2. DX(デジタルトランスフォーメーション)とは

DX とは、デジタル技術を活用して、

ビジネスモデルやプロセス、企業文化、顧客体験を根本的に変革することを指します。

DX の目的は、単に技術を導入するだけでなく、競争力を強化し、

ビジネスの成長を加速させることです。

#### ◆経営における DX の意味

DX は、企業が市場での競争優位を維持するために不可欠な要素です。

次のような分野で影響を与えます：

・ビジネスモデルの革新

デジタル技術を活用して、従来の業界を変革し、新しい価値提供の方法を創出します。

・オペレーションの効率化

クラウドや IoT などのデジタル技術を駆使して、業務フローを最適化し、効率化を図ります。

・顧客体験の向上

顧客に対してパーソナライズされたサービスを提供するために、

データを最大限に活用します。

## 3. AI と DX の関係性

AI は DX の中心的な技術であり、DX を推進する力として機能しています。

DX がデジタル技術を使って企業を根本的に変革する過程で、

AI はデータの活用や自動化の実現を助け、  
よりインテリジェントで効率的なシステムを構築します。

◆具体的な関係性:

- ・AI は DX の推進を支えるエンジンです。  
DX の一環として、AI が導入されることで、データ分析、予測、  
意思決定の自動化が進み、よりスマートなビジネス運営が可能になります。
- ・DX によって AI が活用される場が拡大  
デジタル技術の導入が進むほど、AI が適用される領域は拡大し、  
企業全体の効率化や新たなビジネスモデルの構築が加速します。
- ・AI によるデータドリブな DX  
AI を活用することで、膨大なデータを基にした洞察が得られ、  
DX がよりの確かつ効果的に進行します。

◆経営における AI と DX のシナジー

AI と DX は、企業間競争力を高め、企業が新たな成長機会を掴むために密接に連携しています。  
AI が DX を推進することで、効率的な業務運営、新しい価値創造、  
そして顧客体験の向上が可能となり、  
企業全体のパフォーマンスを大幅に改善することが期待されます。

AI を活用した DX は、未来のビジネス環境で成功するために不可欠な要素と言えるでしょう。

■現場における革命

生成 AI の生成機能(特に文章生成)の素晴らしさや使い方については  
良く「巷の話題」に上っていますが

私はそれよりも、画像認識、音声認識、動画認識といった高度な認識機能が、  
データドリブな経営を行ううえで、  
さまざまな産業において生産性を劇的に向上させる可能性を秘めていると思っています。

これらの技術は、単に効率化を図るだけでなく、  
新しい業務プロセスやビジネスモデルの創出を促し、企業の競争力を高めるものです。

以下に、それぞれの機能が産業にもたらす革新と、  
その具体的な生産性アップの影響について述べます。

1. 画像認識機能の革命的効果

“画像認識”は、カメラやセンサーで撮影された画像や動画を解析し、  
物体や人、文字、シーンなどを自動的に識別する技術です。  
画像認識技術は、製造業、医療、農業、物流など、  
多くの業界で生産性を大きく向上させています。

製造業(メーカー的企業)では、品質管理が自動化され、生産ラインでの不良品の検出や組み立ての正確性が向上します。また、工程管理の進み具合や投下された「人件費＝労務費」の生産性をリアルタイムで把握することができます。これにより、人的エラーを減らし、製品の品質を向上させつつ、生産速度を加速させることが可能です。

医療分野では、医師の診断を支援するために、画像認識がCTスキャンやX線の画像から疾患を高精度で検出します。これにより、診断の精度とスピードが向上し、患者の治療が迅速に行えるようになります。

農業では、ドローンに搭載された画像認識技術が、作物の成長状態や病害虫の発生をリアルタイムでモニタリングし、効率的な農業管理を実現します。これにより、収穫量が増加し、リソースの最適化が可能になります。

## 2. 音声認識機能の革新

“音声認識”は、人間の音声を理解し、文字データとして変換する技術です。音声データを処理することで、さまざまな産業での効率性が向上し、特にカスタマーサービスや製造、医療分野での影響が大きいです。

カスタマーサポートでは、音声認識を使った自動応答システムや音声入力顧客対応のスピードを大幅に改善します。人手に依存しない24時間対応が可能となり、顧客満足度の向上とコスト削減を両立させます。

製造業(メーカー)においては、音声入力によるハンズフリーの指示や報告が現場での作業効率を高め、従業員の安全性を確保しながら、生産プロセスをスムーズに進めることが可能です。

医療分野では、医師が音声入力ですべての診察記録を自動化し、診断や処方時間を短縮します。これにより、より多くの患者に迅速に対応できるようになります。

## 3. 動画認識機能の大きな可能性

“動画認識”は、映像データをリアルタイムで解析し、動きや行動を識別する技術です。この技術は、監視システム、交通管理、スポーツ解析など多岐にわたる産業で活用され、業務の効率化に貢献しています。

監視システムでは、犯罪行動や異常な動きを自動検出し、即座に警告を発することが可能です。

これにより、人手に依存せずに安全管理が強化され、リソースを効率的に配分できるようになります。

物流業界では、AI がビデオカメラでトラックやコンテナの動きを解析し、最適なルートをリアルタイムで提案します。これにより、配送時間の短縮やコスト削減が可能です。

スポーツ業界では、選手の動きを詳細に分析することで、トレーニングの質を向上させ、パフォーマンスを最適化するためのフィードバックが提供されます。これにより、選手の成長をサポートし、チーム全体の戦略を強化します。

#### 4. AI 認識技術による総合的な効果

これらの技術が生み出す生産性の向上は、単一の業務効率化にとどまらず、組織全体のビジネスプロセスを刷新します。データの正確な収集、解析、判断が可能となることで、企業は意思決定のスピードを大幅に向上させ、より戦略的な活動を実現できるようになります。

##### ・データドリブンな経営

これらの認識技術は膨大なデータを自動で収集し、迅速に分析するため、より正確なデータに基づく意思決定が可能になります。これにより、無駄を削減し、業務の最適化が進むとともに、即座に状況に応じた戦略変更が可能になります。

##### ・新しいビジネスモデルの創出

画像、音声、動画の認識技術は、新たな製品やサービスの創出を促進します。たとえば、自動運転車やスマートシティなど、これまでにない革新的なサービスやソリューションが実現されます。

#### 5. まとめ

AI の画像認識、音声認識、動画認識機能は、企業の実産性を飛躍的に高め、業務効率の向上や新たなビジネスモデルの構築を可能にします。データドリブンな経営を実現するために、これらの技術を適切に活用することは、現代の企業が競争力を維持し、未来を切り拓くための鍵となるでしょう。

#### ■会社をどのように変えるべきか

AI を活用して会社を変革するためには、単なる技術導入にとどまらず、経営戦略の根幹に AI の利活用を組み込む必要があります。AI はデータを最大限に活用して意思決定や業務プロセスを高度化し、

効率化や新しい価値創造をもたらす強力なツールです。

以下に、AI を活用して会社をどのように変えるべきかについて、具体的なステップを解説します。

### 1. データドリブン経営の推進

AI の最大の力はマスタデータの活用にあります。

そのため、企業はまず自社のデータを整理・活用できる基盤を整備することが不可欠です。

これには、社内のあらゆる業務や取引、顧客情報などのデータを統合し、

AI が分析しやすい形で蓄積することが含まれます。

データドリブンな経営に転換することで、次のような変化を促します。

#### ・意思決定の高度化

AI が膨大なマスタデータを迅速に解析し、予測モデルを提供することで、

経営者は従来よりも的確で迅速な意思決定ができるようになります。

感覚や経験に頼るのではなく、データに基づいた判断が企業全体の戦略性を向上させます。

#### ・リスク管理の強化

AI はリスクの予測や問題発生の兆候を早期に検出できるため、

経営リスクを事前に特定し、迅速な対応策を講じることが可能になります。

\* 詳しい対応策は、いずれ詳しく述べます。

### 2. 業務プロセスの自動化と効率化

AI による業務の自動化は、

特に反復的で時間がかかる作業の効率を飛躍的に向上させます。

これにより、従業員はより付加価値の高い業務に集中でき、

生産性を向上させることが可能です。

#### ・バックオフィス業務の自動化

経理、在庫管理、顧客対応などの定型業務は、AI による自動化が進む分野です。

これにより、人的ミスが減り、処理速度が向上します。

さらに、リソースを戦略的な業務に集中させることができます。

\* 小規模企業では、収益力強化の point です。

#### ・顧客サービスの改善

チャットボットや AI アシスタントを活用して、24 時間体制で顧客対応が可能になります。

これにより、顧客満足度が向上し、従業員が複雑な問題に注力できる環境が整います。

### 3. 顧客体験のパーソナライズ化

AI を使ったデータ分析は、顧客の行動や嗜好を詳細に把握することを可能にします。

これにより、よりパーソナライズされた商品やサービスを提供でき、

顧客体験を向上させることができます。

- ・個別対応の強化

AI は顧客ごとのデータを基に、  
個別のニーズに応じた商品提案やサービス提供を自動で行うことができます。  
これにより、顧客ロイヤルティが向上し、長期的な関係構築が可能になります。

- ・マーケティングの精度向上

AI が市場データを分析し、ターゲット顧客の行動パターンを予測することで、  
より効果的なマーケティング施策を打ち出せます。  
これにより、広告コストの削減やコンバージョン率の向上が期待されます。

#### 4. イノベーションの加速

AI は既存の業務プロセスの改善にとどまらず、  
新しいビジネスモデルやサービスの創出を促進します。  
AI によって得られる新たなインサイトをもとに、  
従来にはないビジネスチャンスを発掘することが可能です。

- ・新製品・サービスの開発

AI を活用したデータ分析によって顧客ニーズを深く理解することで、  
革新的な製品やサービスを開発するための土台が整います。  
これにより、競争優位性を高め、市場でのリーダーシップを確立することができます。

- ・R&D(研究開発)の効率化

AI は研究開発のスピードを加速させ、  
新しいアイデアを迅速に実現するためのサポートを提供します。  
製品設計やプロトタイプ作成において、  
AI がシミュレーションや予測を行い、成功率を高めます。

#### 5. 企業文化の変革

AI を活用した変革には、技術的な側面だけでなく、  
組織全体の文化やマインドセットのシフトが不可欠です。  
AI 導入に対して従業員が適応し、協力するための環境整備が必要です。

- ・デジタルリテラシーの向上

全社員が AI やデータの活用に対する理解を深めるための教育プログラムを導入し、  
デジタル時代に対応するスキルを強化します。

- ・データ共有と協力

社内の部門を超えたデータ共有が促進され、  
AI を活用して協力し合う文化を構築することが、企業全体の生産性と創造性を高めます。



## 6. AIと従業員の協働

AIは人間の仕事を奪うものではなく、協力して効率を高めるツールとして捉えるべきです。

AIが得意な分野で自動化を進め、

人間がより創造的で戦略的な業務に集中できる環境を整えることで、

組織全体のパフォーマンスが向上します。

\*従業員のワクワク感(やりたいこと重ねる)を実現することを支援する経営。

### ・AIによるサポート

従業員が意思決定を行う際に、AIがデータをもとにしたインサイトを提供し、より精度の高い判断をサポートします。

これにより、リーダーシップや管理職の負担が軽減され、迅速かつ的確な対応が可能となります。

### ・人間とAIの役割分担

AIは繰り返し作業やデータ処理を担い、

従業員はクリエイティブな業務や対人関係に集中することで、

生産性と業務満足度が同時に向上します。

## 7.まとめ

AIを活用して会社を変革するためには、

単なる技術導入にとどまらず、データドリブンな意思決定の推進、業務の自動化、

顧客体験の向上、そして新たなイノベーションの創出を目指すことが求められます。

また、AI技術を効果的に活用するためには、従業員のスキルや文化の変革も不可欠です。

AIを企業の成長エンジンとして活用することで、競争優位性を確立し、

未来に向けた強固な基盤を築くことが可能になります。

今日述べてきたことすべてを導入するに越したことはありませんが

リソースの限られた中小企業では簡単にはいかないでしょうから

経営者の理念とビジョンに共感する支援者と一緒に

まず

・導入効果の大きいところ

・導入できるところ

からやってみてください。

◆AIに関するご相談は、

<https://www.facebook.com/MRCkazu>

まで

いかがでしたでしょうか？楽しみいただけましたか？

次回は

ChatGPT や生成 AI、日々あふれる AI に関する情報

我々は経営者として AI とどのように向き合い

どこでどのように活用していけばいいのか？

◆全 4 回シリーズ、AI リテラシー勉強会

AI 活用のポイントを全 4 回で解説。

会社の成長に役立つ考え方と具体的な現場への導入事例を学び、

ビジネスを次のステージへ導くヒントをお届けします。

第 2 回 ChatGPT, Copilot, Gemini の使い分け

をお送りいたします。

お楽しみに！

編集長:岩下 一智 MRC

~~~~~  
■参考図書■Amazon 電子書籍

渋沢栄一翁の 合本主義「義利合一」の時代がきている

<https://www.amazon.co.jp/dp/BOCB9M6D2T>

*著者：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本 靖夫

~~~~~  
本記事に対するご質問やご感想は下記アドレスまでお願いいたします。

[heart\\_gaia\\_gi@hosbiz.net](mailto:heart_gaia_gi@hosbiz.net)

~~~~~  
バックナンバーは下記の URL を確認してください。

~~~~~ 次回予告 ~~~~~

皆様のコメントを励みにして、航海を続けていきますので、重ねてご支援ご鞭撻を  
よろしくお願ひします。

次回、第 667 号は……

◆全 4 回シリーズ、AI リテラシー勉強会

AI 活用のポイントを全 4 回で解説。

会社の成長に役立つ考え方と具体的な現場への導入事例を学び、  
ビジネスを次のステージへ導くヒントをお届けします。

第 2 回 ChatGPT, Copilot, Gemini の使い分け

を 24・9・20(金)にお届けする予定ですので、  
楽しみにしててくださいね。

※なお内容は予告なく変更する場合がありますので、ご承知ください。

■LittleBiz 企業・中小企業で働く人々や、経営者が幸せでなければ、  
私たちは「世のため・人のため」になれない。  
とクルー一同尽力しております。

■平本靖夫、50 年の経営支援家人生の集大成 第 1 弾！

『合本主義「義利合一」の時代がきている』

Amazon kindle にて発売中！！ 2000円

<https://www.amazon.co.jp/dp/BOCB9M6D2T>

最後までお読みいただき感謝いたします。本当にありがとうございます。

では、また次号で元気にお会いしましょう！

---

◆発信日……毎週・金曜日

◆発行責任者……Captain 平本靖夫

◆編集長……岩下一智・(株)I&C・HosBiz センター 執行役員  
マーケット・クリエーター(MRC)……CST 開発推進責任者

プロフィール

<https://rinenkeieishi.net/corporate/index.html#inoue>

Facebook

<https://www.facebook.com/yasuo.hiramoto>

\*お問い合わせは「<https://rinenkeieishi.net/contact/form.php>」まで

ご愛読ありがとうございます

著者：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本靖夫

プロフィールは

<http://rinenkeieishi.net/corporate/index.html>hiramoto

◆はやぶさ・に関するお問い合わせ・質問は

メールアドレス：kazu\_zohan@hosbiz.net

発行責任者：Captain 平本靖夫、

編集長：岩下一智 MRC